

## ダイレクト PCR 法による牛伝染性リンパ腫感染源 リスク牛の検出

宮本真智子<sup>1)†</sup> 川内京子<sup>1)</sup> 榎原伸一<sup>2)</sup> 宮根和弘<sup>1)</sup> 目堅博久<sup>3)</sup>

- 1) 北海道十勝家畜保健衛生所 (〒089-1182 帯広市川西町基線 59-6)
- 2) 北海道石狩家畜保健衛生所 (〒062-0045 札幌市豊平区羊ヶ丘 3)
- 3) 宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター (〒889-2192 宮崎市学園木花台西 1-1)



本文はこちら

(2021年11月17日受付・2022年2月10日受理・2022年3月15日公開)

### 要 約

牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) 感染源リスクの高い牛を検出するために、純水で希釈した全血を用いたダイレクト PCR 法 (希釈 D-PCR 法) を行い、BLV-CoCoMo-qPCR 法 (LTR 法) によるプロウイルス量及び EC の鍵判定結果と比較した。LTR 法のリスク分類基準値は既報の定量リアルタイム PCR (tax 法) との相関により 20,000 コピー以上を高リスク、5,000~20,000 を中リスク、5,000 未満を低リスクと設定した。BLV 感染牛 210 検体について希釈 D-PCR 法を実施したところ、中リスク以上の 134 検体中 133 検体が陽性、EC の鍵陰性の高リスク 15 検体を見逃しなく検出した。希釈 D-PCR 法の中リスク以上を検出する精度は高いと示唆され、BLV 陽性率の高い農場におけるリスク牛の選別に活用可能と考えられた。——キーワード：牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV)、BLV-CoCoMo-qPCR (LTR 法)、ダイレクト PCR 法、EC の鍵、プロウイルス量。

----- 日獣会誌 75, e46~e50 (2022)